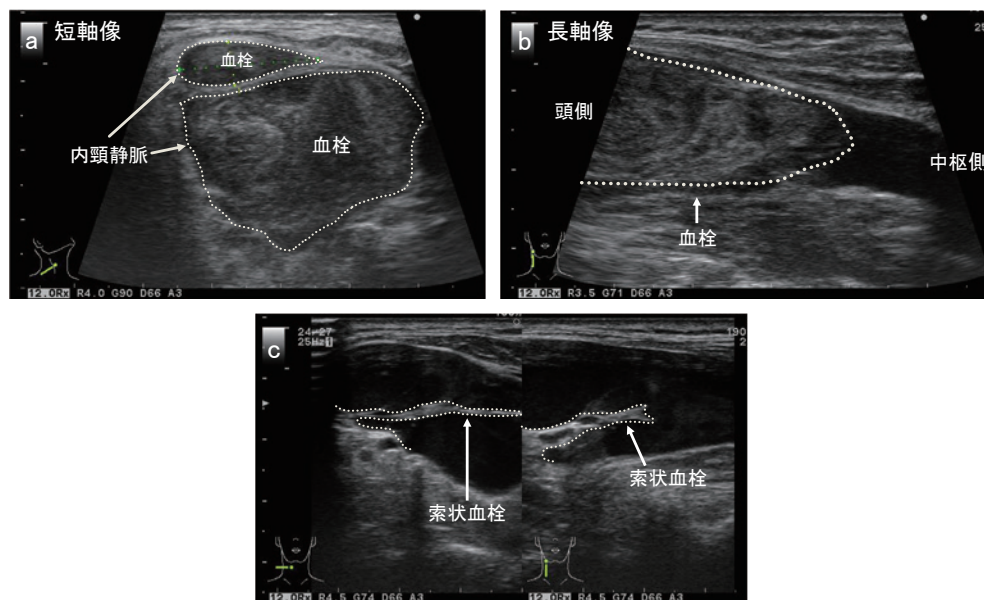


静脈性血管瘤が原因と考えられた右内頸静脈血栓症

岡島 年也 小林 克弘

Fig. 1 超音波画像所見. 血栓全体は低輝度から等輝度でわずかに高輝度を呈する急性期の静脈血栓が示唆され, 血栓形成部位は最大径 33 mm に限局拡張および閉塞していた (a). また, 血栓の中枢端に可動性はなし (b). 治療後 6 ヶ月目には索状血栓化していたが血管径に著変なし (c). なお, 点線内は血栓像を示す



本症例は, 右頸部の腫脹と疼痛を主訴に受診された 70 代の女性. 診察所見上, 右頸部に腫脹を認め, 右頸動脈触知部位近傍に小豆大でやや弾性硬の腫瘍の触知と同部位に軽度圧痛を認めた. 血液検査所見上, CRP 2.28 mg/dl, D-dimer 0.86 μ g/ml と軽度上昇しており, 超音波検査では右内頸静脈の中間部が最大径 33 mm に限局して拡張し, 拡張部位は血栓閉塞していた. 右内頸静脈血栓症と診断し, リバロキサバンでの抗凝固療法を開始した (Fig. 1 a, b). 治療開始 2 日目には疼痛は消失し, 治療開始 3 週目には頸部腫脹も完全に消失した. なお, 治療開始 6 ヶ月目には索状血栓にまで消退したが, 同部位の血管径に明らかな縮小傾向はなく, 拡張部位には顕著なもやもやエコーが認められたため (Fig. 1 c, 2), 再発を懸念して抗凝固療法は継続の方針とした.

内頸静脈血栓症の主要因は扁桃炎など頭頸部感染症であったが, 抗菌薬治療により減少し, 現在はカ

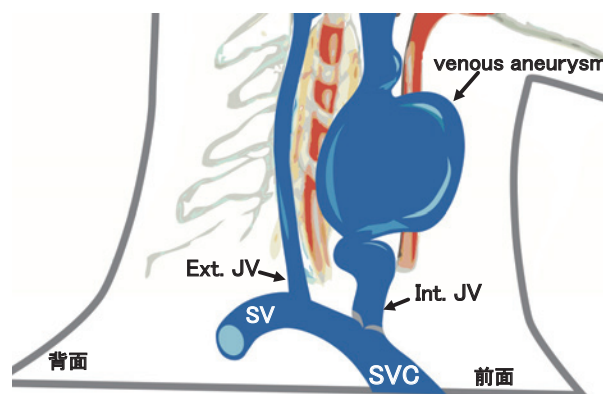


Fig. 2 本症例の模式図. venous aneurysm: 静脈性血管瘤. SVC: superior vena cava, 上大静脈. SV: subclavian vein, 鎖骨下静脈. Int. JV: internal jugular vein, 内頸静脈. Ext. JV: external jugular vein, 外頸静脈

テーテル留置や悪性疾患による血管の圧迫などが増加している¹⁾. 本症例にはこれらの要因はなく, 局

Right internal jugular vein thrombosis due to venous aneurysm of right internal jugular vein

Keywords: venous aneurysm, venous thromboembolism, internal jugular vein

協立病院循環器内科

Toshiya OKAJIMA, Katsuhiro KOBAYASHI

Department of Cardiology, Kyoritsu Hospital, 16-5 Chucho, Kawanishi, Hyogo 666-0016, Japan

Received on February 17, 2020; Revision accepted on April 20, 2020 J-STAGE. Advanced published. date: June 12, 2020